

平成26年度 高校女子選手権大会 埼玉県大会

準決勝 第一試合 9月14日(日) 11:30キックオフ 入間向陽グラウンド

入間向陽高校 VS 山村学園高校

全国高校選手権大会につながる関東大会出場の埼玉県の出場枠は2つ。その出場を懸けて、入間向陽高校と山村学園高校の準決勝が行われた。

ホームグラウンドである向陽は、控え部員のほか、男子野球部員をはじめとする在校生による迫力のある応援を背に試合が開始される。序盤は、互いにリスクを回避し大きな展開が続く。向陽は前日とはフォーメーションを変え、MF⑧をアンカーとし、山村の攻撃を抑えにかかる。奪ったボールはシンプルにスピード豊かなFW⑭の背後へと送り、チャンスをうかがう。山村は、MF⑩が前を向いてゴールをめざす場面を増やし、ゴールに迫りたいが、向陽の組織的な守備に阻まれ決定期を作れない。左MF⑪の突破でチャンスを作るもシュートが打てない展開が続く。一方で、DF②、③を中心に向陽の攻撃の芽を摘み、向陽にも決定機を作らせない。

一進一退の攻防が続く中、最初の決定機は山村に訪れる。向陽CKをはね返し逆襲、最後は⑩がシュートを放つもポストに嫌われゴールならず。その後も、向陽はリトリートして山村にスペースを与えず、逆に奪ったボールをMF⑩がかかわり、MF⑨のサイド攻撃でコーナーキックを奪うなど攻撃の気持ちを持ち続ける。前半はそのままスコアレスで折り返す。

後半も、前半同様に山村がボールを保持するが、シュートをなかなか打てない展開になる。後半9分には、向陽DF陣のパスをカットした山村MF⑪がシュートを放つもまたもポストに嫌われる。その後も攻め立てる山村に対して、向陽がカウンターを仕掛け、FW⑭の背後へのボールはクリアされたが、そこで得たスローインからMF⑩が見事なドリブルで山村DF②を突破し、低く速いクロスの中へ送る。FW⑭が飛び込み、山村GK①とDF③が交錯してボールがこぼれたところを⑭が冷静に決め、ついに均衡が破れる。

その後も山村は逆転を目指してゴールに迫るが、向陽が集中した粘り強いディフェンスで守りきり、決勝戦にコマを進め、見事に全国高校女子サッカー選手権関東予選大会へと進出した。

向陽の選手たちの運動量と体を張った粘り強い守備は大変素晴らしいものであった。関東予選でも上位進出、全国大会出場に期待したい。

敗れた山村学園は、やや攻撃が単調になってしまい向陽のゲームプランにはまってしまった。失点シーン以外に危ない場面がほとんどなかっただけに、悔やまれる敗戦となった。DF⑦のドリブル突破など、リズムの変化がついたときには良い場面が出来ただけに、もっとゴールに迫る場面を増やしたかった。負傷でDF③が後半途中で退場してしまい、MF⑥も足をつってしまい、最後に本来の力が発揮できなかったのも痛かった。選手個人の能力の高さをいかし、関東高校女子秋季大会では優勝を目指してほしい。

平成26年度 高校女子選手権大会 埼玉県大会

準決勝 第二試合 9月14日(日) 13:00キックオフ 入間向陽グラウンド

埼玉平成高校 VS 久喜高校

前日の準々決勝で、本庄第一高校の猛攻をしのぎ、勝利をつかんだ埼玉平成高校と、花咲徳栄高校に競り勝った久喜高校との準決勝第二試合は、立ち上がりから久喜がボールを支配し、グラウンドをワイドに使い大きく揺さぶりをかけながら攻めるも、平成の選手たちがハードワークし、久喜に決定機を作らせない。ボールを奪った後は、平成はうまくボールを動かしながらFW⑩に配球しチャンスをうかがうも、久喜は⑩に対してDFを中心に厳しい寄せでチャンスを作らせない。また、奪われた直後から守備を行い、プレッシャーをかけることで、意図的にボールを奪おうとする。久喜が攻め立てる時間が続くも、前日延長戦まで戦っている平成は全員の足が止まらず、集中力も切れない。前半はチャンスを作る久喜だが、ゴールは奪えず0対0で折り返す。

迎えた後半、前半同様の展開が続く中で、相手DFラインの背後に出たボールを久喜FW⑩が諦めずに追いかける。平成GK①が先にキャッチしたかに見えたが、ボールをこぼしてしまい、それを見逃さなかった久喜FW⑩が押し込み、久喜が待望の先取点を奪う。その後もボールを保持しながらチャンスを作る久喜は、サイドからのクロスに対して2列目から飛び出してきたMF⑩がGKの前でボールにさわって、ネットをゆらし2対0とした。その後もボールを保持しながらゴールをうかがった久喜が2対0で勝利し、決勝進出と全国高校女子サッカー選手権関東予選大会進出を決めた。

久喜は、選手同士の距離感が良いときには、良いボール回しができていただけに、良い距離感でゲームが続けられるともっと圧倒できただろう。サイドバックの相手ゴールに近い位置での攻撃参加の機会をもっと増やせるとチャンスが増えただろう。サイドからのクロスに対して、中の動きの質や迫力が改善されるとゴールも増えるだろう。決勝戦と関東予選での改善に期待したい。

埼玉平成は、前日に引き続き、全員での攻守にわたるハードワークが光った。結果は敗れてしまったものの、ゴールを奪われないという点に関しては大変意識が高く、相手に対して粘り強く、力強く対応した。FW⑩のボールキープからチャンスを作り出そうとしたが、フォローが遅く、孤立してしまう場面が目立った。後半、久喜DFラインのオフサイドトラップをかいくぐったMF⑦が相手GKとの1対1の場面を作ったが、GKにセーブされてしまい、最大の決定機を逃してしまった。決まっていれば勝敗はわからなくなっていただけに、悔やまれるシーンとなった。全員のハードワークと固い守備を武器に、関東高校女子秋季大会での上位進出に期待したい。